

外郭団体特別委員会審査から④

神戸市議会外郭団体に関する特別委員会の審査が2022年12月15日と23日にひらかれ、日本共産党神戸市会議員団の山本じゅんじ議員と今井まさこ議員が外郭団体の運営状況などについて質問しました。

12月15日 企画調整局

一般財団法人 神戸医療産業都市推進機構

目的に照らし財源のあり方を考えるべき

——— 山本じゅんじ議員

一般財団法人神戸医療産業都市推進機構は、神戸医療産業都市の中核的支援機関として、革新的な医療技術を創出し、神戸経済の活性化や市民福祉の向上や国際社会へ貢献することを目指して設立しました。山本議員は「機構への補助金の

うち国庫からは約3分の1。日本だけでなくアジア諸国の医療技術の向上は、いわば人類に貢献する目的であり本来は国の問題だ。神戸で支える財源の重さに疑問を感じる」と指摘し、補助金のあり方や機構の目的について質しました。

答弁ダイジェスト

常務理事：国庫からの補助金は科学研究費で、その整備などには補助は入っていない。国庫はもちろんだが、企業との共同研究で支援をいただくことに注力していきたい。



山本議員：定款の項目のうち、神戸に直接関わっているものは経済の活性化と医療産業都市の推進であり、残りの項目は特に機構でないといけないものではない。国の医療の技術の向上にも寄与することになれば、国策として判断していくことも必要だ。もう少し補助金のあり方を考えるべきだ。

その他の質問

- 第4次経営計画について

——— 山本じゅんじ議員

公立大学法人 神戸市外国語大学

安心して学び続けられるよう困窮する大学生に支援を

——— 今井まさこ議員

公立大学法人神戸市外国語大学は、国際文化に関する実践教育や理論研究の中心として、文化や教育の面で地域の社会・産業の発展に貢献し、世界の高等教育や学術研究の向上を目的としています。今井議員は、学生の心と体の健康に関する調査報告について「アンケートではコロナや物価高騰でまともな食事ができず体調不良を訴えている学生もいて、159

人が経済問題に悩んでいる。引き続きアンケートを実施し、学生の皆さんが健康で勉強に集中できるよう支援をすべき」と求めました。

答弁ダイジェスト

事務局長：コロナや円安の厳しさは学生たちだけではない。制度的に大学が支援するには財源的に非常に難しい。

今井議員：町ぐるみで大学生を支えようという取り組みは全国的にある。市川町や福崎町では10万円の給付金を出している。神戸市も支援を考えるべきだ。

辻局長：地域貢献活動に参加してもらいアルバイト料として支援をし、他にフードプロジェクトも実施してきた。



その他の質問

- LGBTQ推進の取り組みについて

——— 今井まさこ議員

- 高専との同一法人化について

——— 山本じゅんじ議員

神戸都市振興サービス株式会社

今後のビジョンと方向性を明確に示せ

——— 山本じゅんじ議員

神戸都市振興サービス株式会社は、医療、健康、福祉関連分野等における新規事業の創出を目的として、先端医療センターや神戸アイセンターなどの医療施設・医療に関する研究開発施設等の施設の維持管理や運営をおこなっています。山本議員は、税負担の軽減や投資により大

幅な減収になったことや、今後の事業展開などについて追及しました。

答弁ダイジェスト

代表取締役常務：大きな施設を持っているので、その費用負担も大きく、利益を圧迫している。経費の節減により老朽化がすすんでいる施設の予防保全やライフサイエンス系のスタートアップの支援などに充てている。さらに遅れているSDGsやICTの取り組みも強化していきたい。

山本議員：今年度の事業計画を続けるだけでは意味がない。減収して財源をつ

くり出しているなら、今後新しい事業展開を考えるべきだ。

代表取締役常務：現在の第4次中期経営計画のよいものを第5次にも取り込んでいけるよう計画を策定している。できる限り良い研究環境を提供できるよう取り組んでいきたい。

山本議員：結局は今年度の計画の延長でしかない。必要に応じて今後の事業展開や事業の在り方を長期的なビジョンで明確に見定め、ある程度の事業の方向性を示すべきだ。

税金投入しているなら 市民要求に応える使い方を

——— 今井まさこ議員

公益財団法人計算科学振興財団は、スーパーコンピューター（以下「スパコン」）の活用による研究開発、スパコンの産業利用・普及啓発に関する事業をおこなっています。スパコンはコロナウイルスの飛沫や豪雨災害の予見など、近年

私たちの暮らしにも身近になってきています。今井議員は「財団に神戸市から負担金として税金が投入されているなら、市民の要求に応え納得してもらえようという使い方を考えるべき」と質しました。

答弁ダイジェスト

今井議員：例えばビル建設の際にビル風の心配の音がよくあがっている。予測するのが難しいとされるビル風でも、スパコンを使えば建設会社に指導できるのではないかと。

森医療産業都市部長：ビル開発前であ

っても、対策を講じるべき場合でも見える化することが大事だ。一定市税を投入している以上はきちんと市民に還元されてしかるべきだと考えている。

今井議員：市民はきちんと規制してほしいという思いが強い。ぜひスパコンを活用して市民の皆さんのために役立てていただきたい。

その他の質問

- AI・IoT導入支援事業費補助について
——— 山本じゅんじ議員

12月23日 健康局

働き続けられる環境を整備し 人材の流出を防げ

——— 山本じゅんじ議員

地方独立行政法人神戸市民病院機構は、地域医療機関との連携及び役割分担の下で、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害その他の緊急時における医療など、市民に質の高い医療を安全に提供するため、中央市民病院・西市民病院・西神戸医療センター・神戸アイセンター病院を運営しています。山本議員

は、感染症患者に対応できる医療スタッフの継続的な確保・育成が課題となっている今、高いスキルを持つ職員ができるだけ長く働けるように環境を整えるべきと追及しました。

答弁ダイジェスト

理事兼法人本部長：今後の新興感染症に備え、中央市民病院では2021年度から通常より50人多く看護師を確保し、集中治療部門での臨床経験を積む育成をおこなっている。来年度からは看護師の離職防止のために専門のワーキンググループを立ち上げる。

山本議員：（離職は）労働条件だけの

問題ではない。スキルを身につけた上でそれを専門的に生かそうという流れもあるのではないかと。

理事兼法人本部長：離職理由の多くは結婚・出産・育児だが、他病院の他職種への転職も一定ある。

山本議員：知識と経験を積んだスタッフが流出していくと機構としても大きな損失になる。高いスキルで長く働き続けられる環境を整備し、患者が安心して医療が受けられる体制をつくるべきだ。

その他の質問

- 第4次経営計画について
——— 山本じゅんじ議員

認知症増加に備え 支援チームの周知徹底に努めよ

——— 今井まさこ議員

一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団は、在宅あるいは地域における高齢者等に対する医療・介護サービスの推進を図り、高齢者等の福祉の向上に寄与することを目的として設立し、神戸リハビリテーション病院やあんしんすこやかセンターの管理運営、在宅医療・介護連携の支援事業などをおこなっています。今井議員は、神戸市が委託している認知症に関する総合電話相談窓口である、こうべオレンジダイヤルについて「認知症に対する感心度は高まっているのに相談件

数が低い。もっと周知徹底に努めるべき」と質しました。

答弁ダイジェスト

今井議員：相談件数が数年で600件台とは少なすぎるのではないかと。

吉村副局長：神戸モデルの診断助成制度の受診券送付時にチラシを同封したり、広報こうべやホームページにも掲載している。周知とともに、様々な窓口で高齢者の相談を受けながら連携していきたい。

今井議員：様々な窓口があると言うが、もっとオレンジダイヤルに相談がいく仕組みはできないのか。

吉村副局長：あんしんすこやかセンターでの相談が第一義的になっている。その中で早急に対応すべきことがあれば、（同じ財団で神戸市から委託されてい

る）初期集中支援チーム（オレンジチーム）につなぎ連携を図っている。

今井議員：今後も高齢者が増えてくるので、このオレンジダイヤルやオレンジチームの果たす役割は大きい。もっと周知と連携に努力すべきだ。

2月13日より2月議会が開会します

- 2月13日(月) 本会議（議案質疑）
- 14日(火)・15日(水) 常任委員会
- 17日(金)・20日(月) 本会議（代表質疑）
- 2月21日(火)～3月3日(金) 予算特別委員会局別審査
- 3月8日(水) 予算特別委員会 総括質疑
- 10日(金) 予算特別委員会 意見表明・意見決定
- 14日(火) 本会議
- 15日(水)・16日(木) 常任委員会
- 22日(水) 本会議
- 23日(木) 本会議（一般質問）

ぜひご視聴ください

森本真議員が 代表質疑に登壇します

日時 2月20日(月)午前10時頃から

場所 市議会本会議場

質問時間がずれることがありますので、時間に余裕をもってご覧ください。

こちらから
ご視聴は

